

所員活動一覧（二〇一九年四月一日～二〇二〇年三月三十一日）

荒木 浩

●著書

『日本文学研究ジャーナル 第10号』（小林直樹と共編）古典ライブラリー 二〇一九年六月 一五八頁

●論文

〔私〕の物語と同時代性——書くこと、読むこと、訳すこと」公益財団法人サントリー文化財団・アステイオン編集委員会編『アステイオン90』CCCメディアハウス 二〇一九年五月 六八頁～一七四頁（依頼論文）

「源隆国晩年の対外観と仏教—宇治一切経藏というトポスをめぐって—」『日本文学研究ジャーナル 第10号』古典ライブラリー 二〇一九年六月 一七頁～三〇頁（依頼論文）

「11世紀日本対謝霊運の認識及評価差異」（中国語）『日語学習与研究』北京報刊発行局 2019年第5期 二〇一九年一〇月 一〇九頁～一二七頁（依頼論文・査読付き）

「慧遠・謝霊運の位置付け—源隆国『安養集』の戦略をめぐって」蔣義喬編著『六朝文化と日本 謝霊運という視座から』アジア遊学にち 勉誠出版 二〇一九年十一月 一二九頁～一三九頁（査読付き）

●その他の執筆活動

「文遊回廊」（連載一〇回）『京都新聞』二〇一九年四月二八日～二〇二〇年三月二六日

『方丈記』『徒然草』は禅宗とどうかかわるのか」松田浩、上原作和、佐谷眞木人、佐伯孝弘著『古典文学の常識を疑うII 縦・横・斜めから書きかえる文学史』勉誠出版 二〇一九年九月

「エッセイ」基礎領域研究「中世文学購読」由来—私的回想を兼ねて—『日文研』六三号 二〇一九年九月
対談「広島・京都文化フォーラム「雅と創造 古典でひもとく」」『中国新聞』他「紙掲載 二〇一九年十一月二九日他

「一九七五年の益田勝実と梅原猛——私的回想の断章として」石川肇、井上章一、岩水久美、榎本涉、呉座勇一、関野樹、深見清治、安井眞奈

美編『梅原猛先生追悼集―天翔ける心』 国際日本文化研究センター 二〇二〇年三月

石上 阿希

●論文

『錦絵は何をうつしたか』『女・おんな・オンナ―浮世絵にみる女のくらし展図録』渋谷区立松濤美術館 二〇一九年四月 六頁〜一〇頁

●その他の執筆活動

〔分担執筆〕What Do Ukiyo-e Reproduce? (英語)『女・おんな・オンナ―浮世絵にみる女のくらし展図録』渋谷区立松濤美術館 二〇一九年四月

〔巻頭言〕絵と言葉で文化に接続する―「近世期絵入百科事典データベース」の構築と運用』『人文情報学月報 93号前編』人文情報学月報編集室 二〇一九年四月

インタビュー「ときを結ぶ23春画」『共同通信社』二〇一九年六月

「デザインを階層で分類する―西川祐信画『正徳雛形』『ふみ』第12号 国文学研究資料館 二〇一九年六月

インタビュー「この人 春画の正当な評価を訴える研究者 石上阿希さん」『中日新聞』二〇一九年六月三〇日

「日文研コレクションが語る女性と春画」『文化記録映画「春画と日本人」パンフレット』ヴィジュアルフォークロア 二〇一九年九月

インタビュー「春画 展示の自由へ闘う」『朝日新聞』二〇一九年一〇月二五日

「なぜ春画の魅力は、これほどまでにわれわれを惹きつけるのか?」『講談社現代新書ウェブサイト』二〇一九年一〇月

「江戸時代の絵入百科事典を現代につなげる―地域におけるアウトリーチと情報発信」『ぎざし』vol.4 人間文化研究機構 二〇二〇年三月

書評「ジュリー・ネルソン・デビス著『版画におけるパートナーズ―芸術世界の共同制作と浮世絵マーケット』」『日本研究』第六〇集

国際日本文化研究センター 二〇二〇年三月

石川 肇

● 著書

『想像×創造する帝国 吉田初三郎 鳥瞰図への誘い』（劉建輝、古川綾子と共編）国際日本文化研究センター 二〇一九年八月 一三四頁

『梅原猛先生追悼集―天翔ける心』（井上章一、岩水久美、榎本渉、呉座勇一、関野樹、深見清治、安井眞奈美と共編）国際日本文化研究セン

ター 二〇二〇年三月 二九一頁

● 論文

『翻訳教材による「緩やかな平和教育」』『阿部知二研究会・城からの手紙』第26号 阿部知二研究会 二〇一九年四月 二七頁～五三頁

『反転する井伊直弼「花の生涯」執筆理由と戦争体験』坪井秀人編『戦後日本文化再考』三人社 二〇一九年一〇月 一六九頁～一八六頁

● その他の執筆活動

インタビュアー「旗本退屈男」豪華着物を発見 映画黄金期の114点』『KYODO（共同通信ネット）』他一八新聞掲載 二〇一九年七月三〇日

他

インタビュアー「天下御免の豪華衣裳」『朝日新聞』二〇一九年九月四日

インタビュアー「大胆アート 京の支関口に 絵師・吉田初三郎」『京都図絵』JR京都駅に設置』『京都新聞』二〇一九年十一月二二日

インタビュアー「アニメ「白蛇伝」できるまで」『朝日新聞』二〇二〇年一月八日

『編集後記』『梅原猛先生追悼集』（著書欄参照）

磯田 道史

● 著書

『オランダ商館長が見た江戸の災害』（解説、フレデリック・クレインス著）講談社 二〇一九年十二月 二八九頁

『歴史とは靴である 17歳の特別教室』講談社 二〇二〇年一月 一五二頁

●論文

「長井長義の父、長井琳章が所有した和刻本『本草綱目』『薬史学雑誌』vol. 54 No. 2 日本薬史学会 二〇一九年十二月 一二〇頁～一二五頁

●その他の執筆活動

談話「令和、中国台頭で「日本」を強く意識した」（聞き手・塩倉裕）『朝日新聞』二〇一九年四月二日

座談会「平成から令和へ 新元号のメッセージ」（辰巳正明、水上雅晴と）『朝日新聞』二〇一九年四月二日

談話「日本の議論 新元号「令和」（聞き手・酒井充）『産経新聞』（夕刊）二〇一九年四月七日

「磯田道史の古今をちこち」（連載一二回）『読売新聞』二〇一九年四月一日～二〇二〇年三月一日

書評「平川南著『新しい古代史へ1 地域に生きる人びと 甲斐国と古代国家』『毎日新聞』二〇一九年四月二八日

座談会「平成回顧・令和展望へ上」（御厨貴、河瀬直美と）『読売新聞』二〇一九年四月三〇日

対談「第23回菜の花忌シンポジウム「梟（ふくろう）の城…忍者の世界をどう読んだか」『歴史街道』二〇一九年五月号 P H P 研究所
二〇一九年五月

「創刊59周年記念GW特別読み物 忍者・服部半蔵の子孫を探す」『週刊文春』六一巻一七号 二〇一九年五月

座談会「平成回顧・令和展望へ下」（御厨貴、河瀬直美と）『読売新聞』二〇一九年五月一日

書評「リディア・ケイン、ネイト・ピーダーセン著、福井久美子訳『世にも危険な医療の世界史』『毎日新聞』二〇一九年六月九日

「特派記者磯田道史が行く第2弾 忍者・服部半蔵の子孫がいた！」『週刊文春』六一巻三二号 二〇一九年八月

書評「半藤一利・文、塚本やすし・絵『焼けあとのちかい』『毎日新聞』二〇一九年八月四日

書評「久住祐一郎著『三河吉田藩・お国入り道中記』『毎日新聞』二〇一九年九月二二日

対談「わりなきもの」を語る。『潮』七二八号 二〇一九年一〇月

対談「上皇から天皇に継承された宝物リスト初公開 天皇家「御由緒物」を鑑定する」『文藝春秋』二〇一九年一〇月

対談「豊饒なる孤独」を語る。『潮』七二九号 二〇一九年一二月

書評「この3冊」『毎日新聞』二〇一九年十一月一〇日

書評「佐藤洋一郎著『日本のイネ品種考 木簡からDNAまで』『毎日新聞』 二〇一九年十一月一日

対談「2020年NHK大河ドラマ『麒麟がくる』がもっと楽しくなる！ 当代一の歴史学者・特別対談 明智光秀と本能寺の変の謎をすべて語り尽くす！」（呉座勇一と）『週刊朝日』 一二四卷六七号 二〇一九年二月

対談「江戸に学ぶ『経営再建』…若者vs.老人 改革は愚直にやるしかない」『週刊文春』 六二巻一号 二〇二〇年一月

書評「奥田昌子著『日本人の病氣と食の歴史 長寿大国が歩んだ苦難の道』『毎日新聞』 二〇二〇年一月一九日

「わが師・速水融が変えた「江戸」の貌」『文藝春秋』 二〇二〇年二月

「仙台肴町公園の夜中」石川肇、井上章一、岩水久美、榎本渉、呉座勇一、関野樹、深見清治、安井真奈美編『梅原猛先生追悼集「天翔ける心」 国際日本文化研究センター』 二〇二〇年三月

書評「渡辺俊経著『甲賀忍者の真実 末裔が明かすその姿とは』『毎日新聞』 二〇二〇年三月八日

談話「新型コロナ、与謝野晶子の教訓」（聞き手・岡崎明子）『朝日新聞』（夕刊） 二〇二〇年三月九日

磯前 順一

● 著書

『石母田正と戦後マルクス主義史学——アジアの生産様式論争を中心に』（原秀三郎述、磯前礼子と共編）三元社 二〇一九年五月 二七二頁

『民衆宗教論・宗教的主体化とは何か』（島蘭進、安丸良夫と共著）東京大学出版会 二〇一九年五月 三八七頁

『昭和・平成精神史「終わらない戦後」と「幸せな日本人」』講談社 二〇一九年八月 二七五頁

● その他の執筆活動

書評「尾留川方孝著『古代日本の穢れ・死者・儀礼』『週刊読書人』 二〇一九年五月二四日号（三二九〇号）

「藤間生大『秩父風雲録—秩父農民闘争記』（1933年）の復刻にあたって」『アリーナ第22号』中部大学 二〇一九年十一月

「梅原猛の見た夢——日本研究の国際化とは何か」石川肇、井上章一、岩水久美、榎本渉、呉座勇一、関野樹、深見清治、安井真奈美編『梅原猛先生追悼集—天翔ける心』 国際日本文化研究センター 二〇二〇年三月

「日文研がニューヨークで国際会議」『週刊読書人』二〇二〇年三月二七日号（三三三三三号）

伊東 貴之

●論文

「明清思想與禮教——明清交替與東亜的思想世界」（中国語）『文化詮釋與諸傳統之衝擊對話』國際學術研討會論文集』國立中央研究院（臺灣）中國文哲研究所 二〇一九年九月 一頁〜二〇〇頁（依頼論文）

●その他の執筆活動

『朱子語類』巻四「性理」篇訳注（二）二五條〜三六條 恩田裕正、伊東貴之、林文孝、松下道信共訳注『中国哲学研究』第三〇号 東京大学中国哲学研究会 二〇一九年六月（査読付き）

「東アジア書道史への視座——時代や思想と拮抗する「書」の表象と痕跡」書評—松宮貴之著『書と思想——歴史上の人物から見る日中書法文化』『週刊読書人』第三三〇八号 二〇一九年九月二七日号

「建国七〇年、天安門事件（八九・六四）三〇年の節目の年に——香港問題、一国二制度の行方、そして監視社会化する中国を考える」【2019年／中国文学・文化年末回顧】『図書新聞』第三四二八号 二〇一九年二月二一日号

コラム「世界」の「中心」から遠く離れて—グローバル・ヒストリーと世界文学に寄せて— 坪井秀人、瀧井一博、白石恵理、小田龍哉編『越境する歴史学と世界文学』臨川書店 二〇二〇年三月

稲賀 繁美

●著書

『映しと移ろい…文化伝播の器と蝕変の実相』（編著）花鳥社 二〇一九年九月 七九二頁

『異文化へのあこがれ—国際海洋都市 平戸とマカオを舞台に—在外資料が変える日本研究—（Yearning for Foreign Cultures: An International Symposium in Hirado and A Panel in Macau, New Aspects of Japanese Studies based on Overseas Documents）人間文化研究機構ネットワーク型基幹

研究プロジェクト「日本関連在外資料調査研究・活用事業」プロジェクト関連携による研究成果活用推進会議・2019年度事業報告論集』（編著）国際日本文化研究センター 二〇二〇年三月 一三五頁

●論文

「エミール・ガレと万国博覧会：19世紀末ガラス産業の社会的認知闘争にまつわる備忘録メモ」『エミール・ガレのガラス』KAWADE ムック決定版 河出書房新社 二〇一九年四月 三七頁〜四二頁

「平成末年記念…令和元年 日本美術のなかの猪 己亥（つちのと・い）―日本の絵画・造形における猪」『あいだ』二四七号 あいだの会 二〇一九年五月 二二頁〜二七頁（依頼論文）

「Tritonal & Off Shore : 海と陸とのあいだ」『海洋アジア Oceanic Asia』にむけた国民国家制度の解体と海賊行為の問い直しと…8年ぶりにA S 北米アジア学会総会に参加して『あいだ』二四八号 あいだの会 二〇一九年六月 二八頁〜四四頁（依頼論文）

「仮面・ベルツナ・幽霊」『美術解剖学雑誌』第二二巻 第一号 美術解剖学会 二〇一九年七月 一頁〜一一頁（依頼論文）

「経験美学とその周縁…詩の受容経験・脳内映像形成との関係から―」『神経系人文学と経験美学』における「基調講演…美学、経験美学、イメージ学の邂逅」を聴いて『あいだ』二四九号 あいだの会 二〇一九年七月 一八頁〜三一頁（依頼論文）

「山本芳翠・原田直次郎・黒田清輝…世界油彩美術史における19世紀末極東の位置…国際シンポジウム「美術の19世紀…ドイツと日本」から」(2016年5月8日、神奈川県立近代美術館、葉山)『あいだ』二五〇号 あいだの会 二〇一九年八月 二〇頁〜三五頁（依頼論文）

「炎の試練…反植民地主義思想の往還―A・K・クーマラスワミーと柳宗悦とのへあいだ」を繋ぐもの」稲賀繁美編『映しと移ろい…文化伝播の器と蝕変の実相』花鳥社 二〇一九年九月 二二九頁〜二六二頁（査読付き）

「耳」「声」「霊」…無意識的記憶と魂の連鎖について」山中由里子、山田仁史編『この世のキワーへ自然』の内と外『アジア遊学』239 勉誠出版 二〇一九年十一月 二四九頁〜二六六頁

「石佛群を抱く枯山水の平原…須田国太郎のみた雲岡石窟寺院」きょうと視覚文化振興財団編『須田記念 視覚の現場』特集…関西の洋画 醍醐書房 二〇一九年十一月 九一頁〜九二頁

「ヴェトナム美術の近代とは何だったのか…二村淳子『安南藝術からベトナム美術へ…フランス統治下の半世紀』を通して」『あいだ』二五二号

あいだの会 二〇一九年一月 一八頁〜二六頁(依頼論文)

「マルローと世界美術史の構想 国際シンポジウム「アンドレ・マルロー再考―その領域横断的思考の今日的意義」『あいだ』二五三号 あいだの会 二〇二〇年二月 一二頁〜二三頁(依頼論文)

“Under the Shadow of Apartheid: Maritime Paths of Transnational Communication,” 『異文化へのあこがれ』(著書欄参照) 九五頁〜一〇八頁(依頼論文)

●その他の執筆活動

「海洋亜細亞 Oceanic Asia にむけて(2) .. 「雛形としての島嶼―国際日本研究の新たな可能性」『図書新聞』三四〇〇号 二〇一九年五月 解説「日仏文化交流史のなかのギメとレガメ」フェリックス・レガメ著、林久美子訳『明治日本写生帖』角川ソフィア文庫 二〇一九年五月

「海洋亜細亞 Oceanic Asia にむけて(3) .. 「違法越境の技術―銀と阿片と飛行機と」『図書新聞』三四〇一号 二〇一九年六月

書評「〈悲〉の接触・変性と〈空〉」ケノーシスの可能性と―大乘仏教とユダヤキリスト教神学を架橋できるか』『図書新聞』三四〇二号 二〇一九年六月

「火山的想像力と仏教的創作観…セザンヌ・ゴッホの創作を貫く隠された糸」『図書新聞』三四〇七号 二〇一九年七月

「命名」と「内容」との予兆論的癒着について…「ナビ派」と呼ばれる画家たちの軌跡を批判的に回顧する」『図書新聞』三四〇九号 二〇一九年七月

書評「可塑的な比較造型観察理論の潜在性との隔世遺伝的再覚醒にむけて…「わたちの生命」を二〇世紀前半の知的地勢図上において縦横に吟味する」阿部成樹著『アンリ・フォションと未完の美術史…かたち・生命・歴史』岩波書店『図書新聞』三四一〇号 二〇一九年八月

「序文」『研究計画および経緯―本書への導入にかえて』『研究会の概要―あとがきにかえて』『書式と書誌についての追記』『映しと移ろい』(著書欄参照)

「〈センター通信〉Modern Japan in Comparative Imagination: An Interdisciplinary Conference at Durham University, 9-10 May, 2019 参加報告」『日文化研』六三号 二〇一九年九月

「うつわに盛った中味は、そこでどう振る舞うか…「柳慧×近藤高弘「消滅」展に寄せる」『柳慧×近藤高弘「消滅」東京画廊 二〇一九年

一一月

「無に対峙する危うい楕円の円環―大戦期の時代相に日仏関係から補助線を引く…レミ・ラブリュス氏の講演「無に相對して…1945年代のフランスの美術」の余白に」『図書新聞』三四二二号 二〇一九年一一月

「動物愛護法案の成立はなぜ犬猫殺処分行政へと繋がったのか…春藤猷一博士論文「戦後日本の動物愛護1947―2000をめぐって」」『図書新聞』三四二三号 二〇一九年一一月

「日本現代文学の英訳刊行…その舞台裏と思わぬ波及効果…片岡真伊「小説とノヴェルのあいだ…戦後期日本小説の英訳・出版現場の探求」」『図書新聞』三四二四号 二〇一九年一一月

「ミメシス美学からの解放と錯綜する東方装飾の誘惑…欧州日本趣味とイスラーム美術愛好とのあいだを三点測量する」『図書新聞』三四二四号 二〇一九年一一月

「のっぺらぼう」への誘惑…集合霊の憑依と無名性への夢」『図書』一二月号 岩波書店 二〇一九年一一月
書評「「形象の生成と言語の倒錯と…常識を転倒させるひとつの大胆な前提から出発する書」平倉圭著『かたちは思考する』（東京大学出版会）」

「図書新聞」三四二七号 二〇一九年一一月
「Exploring International Team Research and Collaboration for Next-generation Nichibunken Scholars (日文研次世代の国際共同研究・研究協力への模索)」『NICHIBUNKEN NEWSLETTER』一〇〇号 二〇一九年一一月

「風雲児・金森修を改めて追悼する―金森修著、小松美彦・坂野徹・隠岐さや香編『東洋／西洋を越境する―金森修科学論翻訳集』に寄せて」

「図書新聞」三四三一号 二〇二〇年一月
「文化人類学に学術の潮目と方向転換の兆し? 2019年「読書アンケート」」『図書新聞』三四三四号 二〇二〇年二月

「金原省吾と傅抱石 帝国美術学校の沿革と中国美術留学生の周辺」『図書新聞』三四三五号 二〇二〇年二月
「アンドレ・マルロー『網と風』を巡って「空想の美術館」は極東からの知恵をいかに咀嚼・反芻したか」『図書新聞』三四三七号 二〇二〇年二月

「序文」「趣旨説明」「次世代の国際共同日本研究・研究協力への模索」「Exploring International Team Research and Collaboration for Next-

generation Scholars in Japanese Studies Overseas] 『異文化へのあこがれ』(著書欄参照)

「象徴としての公共建築と植民地時代の記憶を宿した都市空間と——全鎮晟著『虚像のアテネ——ベルリン、東京、ソウルの記憶と空間』(佐藤静香訳、政法大学出版局)——著者との会話から」『図書新聞』三四三八号 二〇二〇年三月

「センター通信」Unique or Universal? 日本とその世界文明への貢献——ワルシャワ大学日本研究創設百周年事業、招聘報告」『日文研』六四号 二〇二〇年三月

「追憶断片」石川肇、井上章一、岩水久美、榎本涉、呉座勇一、関野樹、深見清治、安井真奈美編『梅原猛先生追悼集——天翔ける心』国際日本文化研究センター 二〇二〇年三月

井上 章一

● 著書

『プロレスまみれ』宝島社 二〇一九年一〇月 二五五頁

『世界史のミカタ』(佐藤賢一と共著) 祥伝社 二〇一九年二月 二九〇頁

『明智光秀と細川ガラシャ 戦国を生きた父娘の虚像と実像』(呉座勇一、フレデリック・クレインス、郭南燕と共著) 筑摩書房 二〇二〇年三月 二七四頁

● その他の執筆活動

「海の向こうで日本は」(連載二〇回)『産経新聞』(夕刊) 二〇一九年四月一日～二〇二〇年三月一六日

書評「この人に訊け!」(連載六回)『週刊ポスト』二〇一九年四月二日～二〇二〇年二月二日

「世界の中で日本を考える」(連載七回)『みやぎ中央新聞』二〇一九年四月二日～二〇一九年一〇月一四日

「御簾の奥から出た天皇イメージ」『中央公論』中央公論新社 二〇一九年四月

「テーマパーク——日常から切り離された別世界」日本の近代・現代を支えた建築——建築技術100選——委員会編『日本の近代・現代を支えた建築——建築技術100選——日本建築センター 二〇一九年六月

- 対談「专访―《厌恶京都》作者井上章一…傲慢的京都?自卑的京都?」(中国語)『澎湃新聞』二〇一九年六月一四日
- 「伊東忠太―エンタシスという幻想」筒井清忠編『昭和史講義・戦前文化人篇』筑摩書房 二〇一九年七月
- 対談「大阪しちーだいばー」『望星』東海教育研究所 二〇一九年七月
- 「未来のオフィスで働く男性たちへ」『中日新聞』二〇一九年七月一九日
- インタビュー「あすへの手紙「みんな美人」って本当?」『中日新聞』二〇一九年七月一九日
- 「選評(第54回)教育美術・佐武賞」『教育美術』教育美術振興会 二〇一九年八月
- インタビュー「ええやん!かんさい 大覚寺界限」『読売新聞』(夕刊) 二〇一九年八月一〇日
- 「オリンピックとマラソン」『公研』公益産業研究調査会 二〇一九年一〇月
- インタビュー「オビニオンワイド 老年の主張」『週刊ポスト』二〇一九年一〇月
- 「性的な磁場からの風俗史」『現代風俗学研究』現代風俗研究会東京の会 二〇一九年一〇月
- 「解説」会田雄次、小松左京、山崎正和著『日本史の黒幕』中央公論新社 二〇一九年一〇月
- インタビュー「ナポレオン 英雄の素顔は」『朝日新聞』二〇一九年一月三〇日
- 「中原淳一と目の冒険」『approach』竹中工務店 二〇一九年一二月
- 「私の日本って、どこが」『読売新聞』二〇一九年一二月二四日
- 「3020年の潮流を予感させる本」『週刊ポスト』二〇二〇年一月
- インタビュー「京都を守れ」『京都市報』二〇二〇年一月
- 「選評(第23回)司馬遼太郎賞」『遠』七四号 司馬遼太郎記念館 二〇二〇年一月
- インタビュー「どうなの?どうする?京都市」『朝日新聞』二〇二〇年一月二二日
- 「センター通信」『希望の歴史学』を読んで想ったいくつかのこと『日文研』六四号 二〇二〇年三月
- 「バワハラではありません」『公研』公益産業研究調査会 二〇二〇年三月
- 書評「中村勝著 井上史編『キネマ／新聞／カフェー 大部屋俳優・斎藤雷太郎と『土曜日』の時代』」『週刊読書人』二〇二〇年三月二七日

牛村 圭

● 論文

「文明の裁き」に込めようとした法哲学者―東京裁判弁護団長 鶴澤總明」酒匂一郎、新谷真人、福永清貴著『市民法学の新たな地平を求めて 法哲学・市民法学・法解釈学に関する諸問題 篠原敏雄先生追悼論文集』成文堂 二〇一九年八月 二五一頁～二六二頁（依頼論文）

「令和新時代に歴史意識を考える」『日本戦略研究フォーラム季報』vol.28 一般社団法人 日本戦略研究フォーラム 二〇一九年一〇月 六九頁～七四頁（依頼論文）

● その他の執筆活動

「明治日本オリンピックク事始め―スポーツ文明論試論（日文研・アイハウス連携フォーラム 2019年2月20日）」『NICHIBUNKEN NEWSLETTER』九九号 二〇一九年六月

「赤子を誹謗から護った人―「梅原VSブルマ論争」を顧みる」石川肇、井上章一、岩水久美、榎本渉、呉座勇一、関野樹、深見清治、安井真奈美編『梅原猛先生追悼集―天翔ける心』国際日本文化研究センター 二〇二〇年三月

榎本 渉

● 論文

「中世日本僧の中国留学―一二～一三世紀を中心に―」『MINERVA 世界史叢書4 人々がつなぐ世界史』ミネルヴァ書房 二〇一九年八月 一四七頁～一七〇頁

● その他の執筆活動

書評「西谷功著『南宋・鎌倉仏教文化史論』、『日本歴史』八五三号 二〇一九年六月
コメント「一世紀の外交と国際情勢」『日本史研究』六九〇号 二〇二〇年二月

大塚 英志

● 著書

『感情天皇論』筑摩書房 二〇一九年四月 三三五頁

『ミュシャから少女まんがへ 幻の画家・一条成美と明治のオール・ヌーヴォー』KADOKAWA 二〇一九年七月 三六八頁

『柳田國男民主主義論集』（編集）平凡社 二〇二〇年二月 三七六頁

● 論文

「明治期のミュシャ様式文芸誌群と言文一致」『みんなのミュシャ ミュシャからマンガへ——線の魔術』日本テレビ放送網 二〇一九年七月 一九六頁～一九七頁（依頼論文）

「文化工作とまんが教育」（山本忠宏、蔡錦佳、鈴木麻紀と共著）石毛弓、小林宣之編『なぜ学校でマンガを教えるのか？』水声社 二〇一九年

一月 一四五頁～一七四頁

● その他の執筆活動

「まんがでわかるまんがの描き方」（砂威・浅野龍哉と共著）『ヤングエース』二〇一九年四月

「まんが訳道成寺縁起」『Comic Walker』二〇一九年四月

インタビュアー「土曜訪問 大塚英志『感情天皇論』」『東京新聞』二〇一九年五月一八日

インタビュアー「大塚英志『感情天皇論』」『時事通信社』二〇一九年六月八日

「まんが訳道成寺縁起三巻本版」『Comic Walker』二〇一九年七月

『감정화하는 사회 (感情化する社会)』(韓国語) 리시올 二〇二〇年一月

『그 시절, 2층에서 우리는』(二階の住人とその時代)』(韓国語) 보다 二〇二〇年三月

楠 綾子

● 論文

「米国の日本占領政策とその転換」 山内昌之、細谷雄一編著『日本近現代史講義―成功と失敗の歴史に学ぶ』中央公論新社 二〇一九年八月
二〇三頁～二一九頁

● その他の執筆活動

「エッセイ」中曽根康弘が語る戦後日本外交』『日文研』六四号 二〇二〇年三月

「自治体への応援・受援」『ひょうご震災記念21世紀研究機構研究調査最終報告「東日本大震災復興の総合的検証」』ひょうご震災記念21世紀研究機構 二〇二〇年三月

“Has Japan’s Foreign Policy Gone Beyond the Yoshida Doctrine?” *The Diplomat*, The Diplomat, March 2020

倉本 一宏

● 著書

『現代語訳 小右記8 摂政頼通』吉川弘文館 二〇一九年四月 三二五頁

『説話の形成と周縁 古代篇』（小峯和明、古橋信孝と共編）臨川書店 二〇一九年六月 二九六頁

『説話の形成と周縁 中近世篇』（小峯和明、古橋信孝と共編）臨川書店 二〇一九年七月 三〇四頁

『日本千年歴史の謎』（中国語、中公新書編集部と共著）遠足文化 二〇一九年一〇月 三二二頁

『現代語訳 小右記9「この世をば」』吉川弘文館 二〇一九年二〇月 三一二頁

『はじめての日本古代史』筑摩書房 二〇一九年二月 三二〇頁

『公家源氏 王権を支えた名族』中央公論新社 二〇一九年二月 二六五頁

『皇子たちの悲劇 皇位継承の日本古代史』KADOKAWA 二〇二〇年一月 二七二頁

●論文

『小右記』の仮名について』『古代文化』第七一卷第一号 古代学協会 二〇一九年六月 三九頁～五六頁(依頼論文・査読付き)

『第一章 古代(中国語)中公新書編集部と共著』『日本千年歴史之謎』遠足文化 二〇一九年一〇月 九頁～六六頁

『為理解日本的一百本必読書 古代(中国語)中公新書編集部と共著』『日本千年歴史之謎』遠足文化 二〇一九年一〇月 二八六頁～二九二頁

『延喜式』と領曆』『国立歴史民俗博物館研究報告』第218号 国立歴史民俗博物館 二〇一九年二月 一五五頁～一六五頁(依頼論文・査読付き)

●その他の執筆活動

『律令国家への道』『歴史街道』令和元年六月号 P H P 研究所 二〇一九年五月

『藤原不比等と日本古代国家』『興福』興福寺184 二〇一九年六月

『現代のことば』(連載六回)『京都新聞』(夕刊) 二〇一九年六月一日～二〇二〇年三月一七日

『戦乱で読み解く日本古代史』『消えた豪族の虚像と実像』『一個人』No.227 KKベストセラーズ 二〇一九年七月

『日本古代国家の成立と藤原不比等』『毎日新聞』二〇一九年八月一七日

『ハッセイ』梅花の宴』『日文研』六三号 二〇一九年九月

『平和と友好の源泉とは』『TOYRO BUSINESS』二〇一九年一月号 二〇一九年一〇月

『半島への出兵は、なぜ繰り返されたのか』『歴史街道』令和元年一月号 P H P 研究所 二〇一九年一〇月

『薨卒伝』で読み解く、平安貴族の生々しい人物像 平安貴族列伝(連載九回)『Bpress』日本ビジネスプレス 二〇一九年一〇月～

二〇二〇年三月

『私はこうして生きてきました』『津高同窓会報』三重県立津高等学校同窓会 二〇一九年十二月

『はがき通信』『日本歴史』第八五九号 吉川弘文館 二〇一九年十二月

『人文知のフロンティア 即位できなかった皇子たち』『京都新聞』二〇二〇年一月二二日

『梅原先生からの手紙』石川肇、井上章一、岩水久美、榎本渉、呉座勇一、関野樹、深見清治、安井眞奈美編『梅原猛先生追悼集―天翔ける心』

国際日本文化研究センター 二〇二〇年三月

フレデリック・クレインス

●著書

『オランダ商館長が見た江戸の災害』（磯田道史解説）講談社 二〇一九年十二月 二八九頁

『明智光秀と細川ガラシャ 戦国を生きた父娘の虚像と実像』（井上章一、呉座勇一、郭南燕と共著）筑摩書房 二〇二〇年三月 二七四頁

●論文

「イエズス会士が作り上げた光秀・ガラシャ像」『明智光秀と細川ガラシャ』（著書欄参照） 八七頁～一七三頁

“The VOC archives as a valuable source for the history of early modern Japan,” 稲賀繁美編『異文化へのあこがれ―国際海洋都市 平戸とマカオを舞台に―在外資料が変える日本研究―人間文化研究機構ネットワーク型基幹研究プロジェクト「日本関連在外資料調査研究・活用事業」プロジェクト関連携による研究成果活用推進会議・2019年度事業報告論集』国際日本文化研究センター 二〇二〇年三月 一九頁～三〇頁（依頼論文）

「平戸オランダ商館の設立経緯について」『平戸紀要』第八号 二〇二〇年三月 二八頁～四八頁

●その他の執筆活動

「モンターヌスのもう一つの富士山図」『日文研』六三三号 二〇一九年九月

「なぜ江戸幕府はオランダの高性能な消化ポンプを導入しなかったのか？」『現代新書ウェブ』講談社 二〇一九年十二月

「時代劇よりも面白いオランダ人の江戸体験記」『本』二〇二〇年一月号 講談社 二〇二〇年一月

「江戸の大火に襲われたオランダ商館長ワーヘナールの手紙から伝わるもの」『現代新書ウェブ』講談社 二〇二〇年一月

書評「小川仁著『シビオーネ・アマテー研究 慶長遣欧使節とバロック期西欧の日本像』」『総人・人環フォーラム』vol.38 人間・環境学研究科 二〇二〇年二月 京都大学大学院

「明智光秀図」『日文研』六四号 二〇二〇年三月

「あとがき」井上章一、呉座勇一、フレデリック・クレインス、郭南燕著『明智光秀と細川ガラシャ 戦国を生きた父娘の虚像と実像』筑摩書房 二〇二〇年三月

呉座 勇一

●著書

『日本中世への招待』朝日新聞出版 二〇二〇年二月 二八八頁

『明智光秀と細川ガラシャ 戦国を生きた父娘の虚像と実像』（井上章一、フレデリック・クレインス、郭南燕と共著）筑摩書房 二〇二〇年三月 二七四頁

●論文

「南北朝内乱と『太平記』史観―王権論の視点から―」松尾葦江編『軍記物語講座 第三卷 平和の世は来るか 太平記』花鳥社 二〇一九年一〇月 二二四頁～二三九頁（査読付き）

「明智光秀と本能寺の変」『明智光秀と細川ガラシャ』（著書欄参照） 一三頁～八六頁

「中世熊野と戦乱―文学と歴史のあいだ―」『軍記と語り物』56号 軍記・語り物研究会 二〇二〇年三月 四頁～一六頁（依頼論文）

●その他の執筆活動

書評「原武史著『平成の終焉』」『朝日新聞』 二〇一九年四月二七日

「俗流歴史本と対峙する」『中央公論』 二〇一九年六月号 二〇一九年五月

書評「光成準治著『小早川隆景・秀秋』」『朝日新聞』 二〇一九年五月一日

インタビュー「令和の知をひらく（4）絶対の正解求める危うさ」『日本経済新聞』 二〇一九年五月二三日

書評「内藤正典著『外国人労働者・移民・難民ってだれのこと？』」『朝日新聞』 二〇一九年五月二五日

書評「森先一貴、近江俊秀著『境界の日本史』」『朝日新聞』 二〇一九年六月一日

エッセイ「歴史小説家と歴史学者」『公研』 二〇一九年八月号 二〇一九年八月

- 書評「古谷浩一著『林彪事件と習近平』、楊海英編『中国が世界を動かした「1988」』』『朝日新聞』二〇一九年八月三日
- 書評「黒嶋敏編『戦国合戦へ大敗』の歴史学』』『朝日新聞』二〇一九年八月一七日
- 書評「小泉悠著『帝国』ロシアの地政学』』『朝日新聞』二〇一九年九月七日
- 書評「坂上泉著『へぼ侍』』『朝日新聞』二〇一九年九月二八日
- 書評「大澤絢子著『親鸞「六つの顔」はなぜ生まれたのか』』『朝日新聞』二〇一九年一〇月二二日
- 対談「歴史と物語の交点…『太平記』の射程（兵藤裕己と）』『アナホリッシュ国文学』響文社 二〇一九年一二月
- 書評「稲葉振一郎著『AI時代の労働の哲学』、銀河帝国は必要か？』』『朝日新聞』二〇一九年一二月九日
- 対談「2020年NHK大河ドラマ「麒麟がくる」がもっと楽しくなる！当代一の歴史学者・特別対談 明智光秀と本能寺の変の謎をすべて語り尽くす！」（磯田道史と）』『週刊朝日』一二四卷六七号 二〇一九年一二月
- 「共同研究」応永・永享期文化論』の紹介』『NICHIBUNKEN NEWSLETTER』一〇〇号 二〇一九年一二月
- 書評「今津勝紀著『戸籍が語る古代の家族』』『朝日新聞』二〇一九年一二月七日
- インタビュー「歴史学者が見る安倍政権「江戸幕府より豊臣政権に近い」』『朝日新聞』二〇二〇年一月七日
- 書評「加藤陽子著『天皇と軍隊の近代史』』『朝日新聞』二〇一九年一月一日
- エッセイ「意外と知らない日本中世社会』』一冊の本』二〇二〇年二月号 朝日新聞出版 二〇二〇年二月
- エッセイ「地方自治体と歴史学者』』『公研』二〇二〇年二月号 二〇二〇年二月
- 書評「アリエット・ド・ポダール著『茶匠と探偵』』『朝日新聞』二〇二〇年二月一五日
- 書評「古川隆久著『建国神話の社会史』』『朝日新聞』二〇二〇年三月七日

小松 和彦

●著書

『カラー版 重ね地図で読み解く京都の「魔界」』（監修）宝島社 二〇一九年七月 二二三頁

『伝承や古典にのこる！ 日本の怖い妖怪1 里の妖怪たち』（監修、中山けーしょー作・絵）ほるぷ出版 二〇一九年二月 六四頁

『伝承や古典にのこる！ 日本の怖い妖怪2 水辺と道の妖怪たち』（監修、中山けーしょー作・絵）ほるぷ出版 二〇二〇年二月 六四頁

『伝承や古典にのこる！ 日本の怖い妖怪3 山の妖怪たち』（監修、中山けーしょー作・絵）ほるぷ出版 二〇二〇年二月 六四頁

●その他の執筆活動

『封印された神と妖怪の記憶を発掘する1 葛城山の土蜘蛛』『怪と幽』Vol. 001 KADOKAWA 二〇一九年四月

『マイ・フェイバリット緑紅さん 秋の奇祭 描写細かく写真も豊富』『京都新聞』二〇一九年四月一六日

『比較妖怪学の可能性』『驚異と怪異 想像界の生きものたち』河出書房新社 二〇一九年八月

『封印された神と妖怪の記憶を発掘する2 鞍馬の竹伐り会式の向こう側へ』『怪と幽』Vol. 002 KADOKAWA 二〇一九年八月

『春画展をつうじて日本人とは何かをドラマチックに問う』『文化記録映画 春画と日本人（パンフレット）』ヴィジュアルフォークロア

二〇一九年九月

インタビュー「夜と日本人」『Ace』No. 265 日本リサーチセンター 二〇一九年一〇月

“What Is a Yokai?” *Yokai: Ghosts, Demons & Monsters of Japan*, Museum of New Mexico Pr, November 2019

『封印された神と妖怪の記憶を発掘する3 鞍馬の天狗の正体を探る』『怪と幽』Vol. 003 KADOKAWA 二〇一九年十二月

“FROM THE PAST INTO THE FUTURE: THE ENDURING LEGACY OF YOKAI.” *Japan Supernatural: Ghost, Goblins, and Monsters, 1700 to Now*, Art

Gallery of New South Wales, January 2020

書評「神戸新聞社編『新五国風土記 ひょうろ彩祭』神戸新聞総合出版センター」『神戸新聞』二〇二〇年二月九日

インタビュー「『怖れ』は宗教的観念の土壌である」『道標』2020年春季号 萬福寺 二〇二〇年三月

『お別れの会 世話人代表・挨拶』石川肇、井上章一、岩水久美、榎本渉、呉座勇一、関野樹、深見清治、安井真奈美編『梅原猛先生追悼集—

天翔ける心』国際日本文化研究センター 二〇二〇年三月

『途方もなく大きな「知の器」—梅原猛さんを偲んで』石川肇、井上章一、岩水久美、榎本渉、呉座勇一、関野樹、深見清治、安井真奈美編

『梅原猛先生追悼集—天翔ける心』国際日本文化研究センター 二〇二〇年三月

白石 恵理

● 著書

『越境する歴史学と世界文学』（坪井秀人、瀧井一博、小田龍哉と共編著）臨川書店 二〇二〇年三月 二二六頁

● 論文

「見立てと写しのアイヌ戯画―メディアとしての〈夷酋列像〉」稲賀繁美編『映しと移ろい…文化伝播の器と蝕変の実相』花鳥社 二〇一九年九月 五五頁〜七七頁

● その他の執筆活動

「〈エッセイ〉ビータがいた時間」『日文研』六四号 二〇二〇年三月

〔翻訳〕テッサ・モリス・スズキ「移りゆく日本研究の境界（フロンティア）」『越境する歴史学と世界文学』（著書欄参照）

「格別の気配とともに」『梅原猛先生追悼集』編集委員会編『梅原猛先生追悼集―天翔ける心』国際日本文化研究センター 二〇二〇年三月

関野 樹

● 論文

“Using Uncertain Time Intervals in Linked Data” *International Journal of Geoinformatics* 15(2), Association for Geoinformation Technology, June 2019, pp. 15-23 (査読付[※])

“HuTime Ontology to Represent Uncertain Time Intervals,” Proceedings of Workshop “Ontologies for Linked Data in the Humanities,” *Digital Humanities Conference 2019, DH2020 SIG-LO*, July 2019 (査読付[※])

「時間名による時間参照基盤の構築―Linked Dataを用いた期間の記述とリソース化」『情報処理学会シンポジウムシリーズ じんもんこん 2019 論文集』情報処理学会 二〇一九年二月 二六七頁〜二七二頁 (査読付[※])

“Data description and retrieval using periods represented by uncertain time intervals,” *Journal of Information Processing* 28, 情報処理学会, February 2020, pp. 91-99 (査読付[※])

瀧井 一博

● 著書

Rechtstransfer in der Geschichte: Internationale Festschrift für Wilhelm Brauner zum 75. Geburtstag. (ドイツ語) Gábor Hamza, Milan Havacka, and

Kazuhiko Takii eds., Peter Lang Pub Inc, October 2019, 420 pages.

『日本政治史―現代日本を形作るもの 歴史のなかに現在をみる』(清水唯一朗、村井良太と共著) 有斐閣 二〇二〇年一月二五日 三二二頁
『越境する歴史学と世界文学』(坪井秀人、白石恵理、小田龍哉と共編著) 臨川書店 二〇二〇年三月 二二六頁

● 論文

「立憲革命としての明治維新」山内昌之、細谷雄一共編著『日本近現代史講義―成功と失敗の歴史に学ぶ』中央公論新社 二〇一九年八月
三一頁～四八頁

“Tó Hirobunni und der japanische Konstitutionalismus. Ein kurzes Porträt eines Verfassungdenkers.” (ドイツ語) Gábor Hamza, Milan Havacka, and
Kazuhiko Takii eds., *Rechtstransfer in der Geschichte: Internationale Festschrift für Wilhelm Brauner zum 75. Geburtstag*, Peter Lang Pub Inc, October
2019, pp. 395–406

● その他の執筆活動

「伊藤博文関係文書」のデジタル化に寄せて―『伊藤博文秘録』講読のころ』『国立国会図書館月報』六九六号 二〇一九年四月

「論点」文化国家」へ 地方再生から』『読売新聞』二〇一九年四月一二日

「政治学の古典を読む(二七) 哲人政治による民主政治の断罪(フラトン(藤沢令夫訳)『国家』上・下、岩波文庫、一九七九年)』『究』第九八
号 ミネルヴァ書房 二〇一九年五月

「政治学の古典を読む(二八) 宗教復権時代の政治的教養(野田宣雄『教養市民層からナチズムへ―比較宗教社会史のこころみ』名古屋大学出
版会、一九八八年)』『究』第一〇一号 ミネルヴァ書房 二〇一九年八月

「現代のことは」(連載三回)『京都新聞』(夕刊) 二〇一九年八月二〇日～二〇一九年十二月一〇日

「政治学の古典を読む(二九)「国制知」への道しるべ(上山安敏『法社会史』みすず書房、一九六六年)』『究』第一〇四号 ミネルヴァ書房

二〇一九年十一月

「松下村塾の学びの実践―伊藤博文の場合―」『至誠館大学 吉田松陰研究所紀要』第1号 至誠館大学 吉田松陰研究所 二〇一九年十二月

「結ぶ人―渡邊洪基の生涯」『MICHÉ』06 Opa Press 二〇一九年十二月

「誘惑者の言葉」石川肇、井上章一、岩水久美、榎本渉、呉座勇一、関野樹、深見清治、安井眞奈美編『梅原猛先生追悼集―天翔ける心』国際

日本文化研究センター 二〇二〇年三月

コラム「グローバル・ヒストリーと『世界文学』の対話に寄せて」『越境する歴史学と世界文学』（著書欄参照） 一一―頁―一三頁

坪井 秀人

●著書

『文藝年鑑2019』（日本文藝家協会編、共著）新潮社 二〇一九年六月 六〇〇頁

『戦後日本文化再考』（編著）三人社 二〇一九年一〇月 六〇三頁

『越境する歴史学と世界文学』（瀧井一博、白石恵理、小田龍哉と共編著）臨川書店 二〇二〇年三月 二二六頁

●論文

「旧満洲留用者たちの戦後・雑誌『ツルオカ』とその周辺」『ツルオカ【復刻版】』三人社 二〇一九年七月 一頁―一〇頁

「佐藤一英の位置」『図録 尾張に生きた詩人 佐藤一英展』一宮市博物館 二〇一九年一〇月 四頁―八頁（依頼論文）

「文芸都市としての名古屋」愛知県史編さん委員会編『愛知県史 通史編10 年表・索引（付録 CD-ROM）』愛知県 二〇二〇年三月 三五二―三五五頁

～三五五頁

「序論 グローバル・ヒストリーと世界文学を以て日本語文学」『越境する歴史学と世界文学』（著書欄参照） 一頁―八頁

「転形期としての一九八九年と元号問題」『昭和文学研究』第80集 昭和文学会 二〇二〇年三月 四三頁―五五頁（依頼論文・査読付き）

シモン・ブリン

● 論文

“Contested emperors” Joy Hendry ed., *Understanding Japanese Society (5th edition)*, Routledge, May 2019, pp. 256–256 (査読付*)

“Abdication, Succession and Japan’s Imperial Future: An Emperor’s Dilemma” *The Asia-Pacific Journal: Japan Focus*, Asia Pacific Journal, May 2019, pp. 1–15 (査読付*)

“Japong’an Imperialist Geleceği: Bir İmparatorun İklemi.” (その他外国語) *Turque Diplomatique*, Turque Diplomatique, June 2019, pp. 25–28 (依頼論文 査読付*)

“Shinto in Meiji Japan: Reflections on Ise” Kurt and Yukiko Duke Bergman eds., *Japan’s Past and Present*, Bokfortagest Støple, March 2020, pp. 488–505

● その他の執筆活動
(編集) *Japan Review* vol.34 (2019), International Research Center for Japanese Studies, December 2019

「センター通信」二〇一九年日文研特別公開シンポジウム：「天皇と皇位継承―過去と現在の視座」について『日文研』六四号 二〇二〇年三月

古川 綾子

● 著書

『想像×創造する帝国 吉田初三郎鳥瞰図への誘い』(劉建輝、石川肇と共編) 国際日本文化研究センター 二〇一九年八月 一三四頁

● その他の執筆活動

「国際日本文化研究センターにおける浪曲SPレコード・デジタルアーカイブの取組」『びぶろす』85・86合併号 国立国会図書館 二〇一九年一〇月

「ヘッセイ〈ゆりやんレトリィバアとミス・ワカナ―魅力的な女性芸人について―」『日文研』六四号 二〇二〇年三月

細川 周平

● 著書

『いま、ことばを立ち上げること』（林香里、細見和之、石井伸介と共著）関西学院大学出版会 二〇一九年一月 九九頁

Sentiment Language and the Arts: The Japanese-Brazilian Heritage, Brill, December 2019, 386 pages.

● その他の執筆活動

「武本由夫賞の終わりを聞いて」『ブラジル日系文学』ブラジル日系文学社 二〇一九年七月

「ジョアン・ジルベルトへの想いあふれて」『Jazz Tokyo』Jazz Tokyo 二〇一九年八月

「ブラジルで書く日本語」松井太郎の場合」、対談「シンポジウム いま、ことばを立ち上げること」『いま、ことばを立ち上げること』（著書欄

参照)

「追悼 ジョアン・ジルベルト 『調子はずれ』の鼻唄歌手」『ERIS』vol.28 エリスメディア 二〇一九年十一月

「ビビノオト サカキマンゴー 『ビントクライベイベイ』」『ERIS』vol.28 エリスメディア 二〇一九年十一月

「如月小春を思い出す」2020 Kisaragi Koharu BOOK 編集部・編著『2020 Kisaragi Koharu Book』LABO! 二〇二〇年一月一日

「センター通信」パリを退屈させなかつた旗本」『日文研』六四号 二〇二〇年三月

前川 志織

● 著書

『草の根のアール・ヌーヴォー…明治期の文芸雑誌と凶案教育』（編著）国際日本文化研究センタープロジェクト推進室 二〇一九年十一月八

日 四一頁

● 論文

「キャラクターの喩えとしての童画——戦間期日本の新聞広告にみる洋菓子の意味の変遷と子ども像」『大正イマジュリイ』14号 大正イマジュ

リイ学会 二〇一九年五月三一日 五〇頁〜七四頁（査読付き）

「戦間期東アジアにおける森永製菓の販売促進・広告戦略と新聞広告」『大正イマジュリイ』別冊「戦間期東アジアにおける大衆的図像の視覚文化論——新聞広告を中心に」国際シンポジウム報告書編集委員会 二〇二〇年三月 一七一頁～一八六頁

「関東大震災とその復興期における洋菓子広告宣伝をめぐる視覚的イメージ」『文化學年報』69号 同志社大学文化学会 二〇二〇年三月 二六九頁～二八八頁

●その他の執筆活動

報告「新聞広告とオール・ヌーヴォー風図案——明治30～40年代における文芸雑誌表紙絵と京都高等学校図案科学生作品を手がかりに」『大正イマジュリイ』別冊「戦間期東アジアにおける大衆的図像の視覚文化論——新聞広告を中心に」国際シンポジウム報告書編集委員会 二〇二〇年三月

「センター通信」展覧会「草の根のオール・ヌーヴォー——明治期の文芸雑誌と図案教育」を担当して『日文研』六四号 二〇二〇年三月

松木 裕美

●その他の執筆活動

“Isamu Noguchi - Beyond Borders” *Pleasure Garden Magazine* vol. 6, The Garden Edit, November 2019

(インタビュー) “Comme si les modernes n'existaient pas... Entretien avec Terumobu Fujimori” (フランス語) *D'architectures* vol. 276, INNOVAPRESSE, November 2019

松田 利彦

●論文

「朝鮮総督在任期における南次郎の陸軍統制構想と対外戦略構想」『二十世紀研究』第20号 二十世紀研究編集委員会 二〇一九年十二月 八三頁～一〇四頁 (査読付き)

●その他の執筆活動

- 「共同研究」植民地帝国日本における知と権力」を終えて」『鴨東通信』108号 思文閣出版社 二〇一九年四月
- 「第3回東アジア日本研究者協議会国際学術大会を終えて」『NICHIBUNKEN NEWSLETTER』九九号 二〇一九年六月
- (書評) Carter, J. Eckert, *Park Chung Hee and Modern Korea: The Roots of Militarism, 1866-1945* (Harvard University Press, 2016) (二〇一九年一〇月)
- 『日本研究』第五九集 国際日本文化研究センター 2019年10月(査読付き)
- 「日韓の歴史をたどる」③「文化政治」『赤旗』二〇一九年十一月六日
- 「2・8宣言／3・1運動と朝鮮植民地支配体制の転換—警察を中心に」在日本韓国YMCA編『未完の独立宣言』新教出版社 二〇一九年二月
- (「センター通信」共同研究「植民地帝国日本における知と権力」あとがきのあとがき)『日文研』六四号 二〇二〇年三月

光平 有希

●その他の執筆活動

- 「音楽療法、江戸の昔から—養生の知見たぐり「起源は戦後」の常識覆す—」『日本経済新聞』二〇一九年八月二日
- 解説「(口絵解説)「はしか絵」(日文研・宗田文庫より)」『日本研究』第五九集 国際日本文化研究センター 二〇一九年一〇月
- 書評「ロテム・コーナー著『白から黄へ—ヨーロッパの人種観にみる日本人』300〜173年」『日本研究』第五九集 国際日本文化研究センター 二〇一九年一〇月
- 書評「謝心範著『養生の智慧と氣の思想—貝原益軒に至る未病の文化を読む—』『日本医史学雑誌』第六五巻第三号 日本医史学会 二〇一九年一月
- 「〈エッセイ〉ジャポニズム楽曲探訪記」『日文研』六四号 二〇二〇年三月
- 「19世紀イタリア楽壇における日本への眼差し—ローマ・ナポリ・フィレンツェでの調査を終えて—」『ギョウシ』vol.4 人間文化研究機構 二〇二〇年三月

安井 眞奈美

● 論文

「ハワイと故郷の島を結ぶ——山口県沖家室島の雑誌『かむろ』より」『立命館言語文化研究』31巻1号 立命館言語文化研究所 二〇一九年七月 八三頁〜九四頁（依頼論文）

「妖怪画に描かれた身体—目の妖怪を中心に」山中由里子、山中仁編『この世のキワー〈自然〉の内と外』アジア遊学 239 勉誠出版 二〇一九年一月 一六三頁〜一七三頁

“Changing Folk Cultures of Pregnancy and Childbirth,” trans. Lucy Fraser and Madelein Shimizu. In *The Routledge Companion to Gender and Japanese Culture*, eds. Jennifer Coates, Lucy Fraser and Mark Pendleton. Routledge, December 2019, pp. 135–45（査読付き）

“Změna vnímání lidského plodu v Japonsku. Úvaha o péči poskytované truchlým v případě perinatální ztráty” (The Transformation of Fetus Perspectives in Japan—Considering Perinatal Grief Care), trans. Jakub Hrubý. *Nový Orient* vol. 74 (2019)/1, Oriental Institute of the Czech Academy of Sciences, March 2020, pp. 16–23（その他外国語）（依頼論文）

● その他の執筆活動

報告「身体と儀礼」パネル発表、JAWS (Japan Anthropology Workshop) 日本人類学ワークショップ) につ (2019年4月15日) 『国際日本文化研究センター (Webサイト)』 二〇一九年四月

報告「SOAS University of London (ロンドン大学 SOAS) の JRC につセミナー発表 (2019年4月23日) 『国際日本文化研究センター (Webサイト)』 二〇一九年四月

書評「伏見裕子著『近代日本における出産と産屋——香川県伊吹島の産屋の存続と閉鎖』『文化人類学』vol. 84」二〇一九年六月（査読付き）

「編集後記」『日本研究』第五九集 国際日本文化研究センター 二〇一九年一〇月

報告「チェコ科学アカデミーと日文研との交流 (2019年10月〜11月) 『国際日本文化研究センター (Webサイト)』 二〇一九年一月
報告「シンポジウム「医の世界における明清細工と江戸風物の邂逅」(北京大学科学技术・医学史学院) に参加して」『国際日本文化研究セン

ター (Web サイト)』二〇一九年一月

報告「能登・輪島市立七浦公民館のフォーラムに参加して (2019年11月17日)」『国際日本文化研究センター (Web サイト)』二〇一九年二月

報告「コロンビア大学・日文研共催講演会「日本における聖なるもの、差別、そして死者の霊」の開催」『国際日本文化研究センター (Web サイト)』二〇一九年二月

「センター通信」共同研究会「身体イメージの想像と展開」を立ち上げて」『日文研』六四号 二〇二〇年三月

報告「特別展 JAPAN SUPERNATURAL がシドニーで開催されました」『国際日本文化研究センター (Web サイト)』二〇二〇年三月

報告「The report of the JAPAN SUPERNATURAL exhibition in Sydney」『国際日本文化研究センター (Web サイト)』二〇二〇年三月

『編集後記』『日本研究』第六〇集 国際日本文化研究センター 二〇二〇年三月

山田 奨治

●その他の執筆活動

インタビュー「(コメント) 違法ダウンロード 規制強化政府足踏み」『中国新聞』他 二〇一九年八月一六日他

「ダウンロード違法化拡大」稲賀繁美編『映しと移ろい…文化伝播の器と蝕変の実相』花鳥社 二〇一九年九月

「センター通信」共同研究会「縮小社会の文化創造…個・ネットワーク・資本・制度の観点から」のここと『日文研』六四号 二〇二〇年三月

「梅原猛先生のこと」石川肇、井上章一、岩水久美、榎本渉、呉座勇一、関野樹、深見清治、安井眞奈美編『梅原猛先生追悼集―天翔ける心』

国際日本文化研究センター 二〇二〇年三月

劉 建輝

●著書

『想像×創造する帝国 吉田初三郎 鳥瞰図への誘い』(石川肇、古川綾子と共編) 国際日本文化研究センター 二〇一九年八月 一三四頁

●その他の執筆活動

インタビュアー「大正の観光地図がよみがえる―吉田初三郎が描いた鳥瞰図」『はれ子報』二〇一九年五月号 日経B Pコンサルティング社
二〇一九年五月

インタビュアー「江戸期の日中―アートが結ぶ」『読売新聞』二〇一九年五月三〇日

インタビュアー「京都动画大火震惊世界背后…一代代的记忆与从未中断过的批判」(中国語)『澎湃新聞』二〇一九年七月二〇日
インタビュアー「大正の広重」地図絵師・吉田初三郎―鳥瞰図描いた富士山の謎』『京都新聞』二〇二〇年一月三〇日

マルクス・リュッターマン

●その他の執筆活動

“Übereinstimmung ist ‘außerhalb der menschlichen Zeit’: Kurstorisch über Subjektivität und Partikularität zum Ende der Ära Heisei.” (ドイツ語)

Weile, ohne zu wohnen. Festschrift für Peter Pörner (= MOAG) vol. 150, Gesellschaft für Natur- und Völkerkunde Ostasiens e.V., December 2019

「センター通信」 「思煩之時」―礼儀作法の歴史を文書から研究する意義について』『日文研』六四号 二〇二〇年三月

「普遍論の一コマ―梅原猛とハンス・アルバートとの仮想対談」石川肇、井上章一、岩水久美、榎本涉、呉座勇一、関野樹、深見清治、安井眞奈美編『梅原猛先生追悼集―天翔ける心』 国際日本文化研究センター 二〇二〇年三月